

平和で住みよい社会づくりに貢献していくために

近年、CSR(企業の社会的責任)が社会に広く認知されています。その背景にあるのは、社会の持続的発展なくしては、企業も、個人も存在し続けることはできないという認識です。市民一人ひとりが積極的、主体的に社会に参加し、企業や団体がその活動を促進、支援していくことは、社会の形成と向上に欠かせない要素です。

全日本社会貢献団体機構は、遊技業界や民間、公的機関などと連携、協力しながら、文化や学術の振興、平和で住みよい社会づくりの推進、またそれらの広報を目的に、全国のパチンコ・パチスロホール組合の連合会組織である全日本遊技事業協同組合連合会(全日遊連)を母体とし2005年発足しました。

全日遊連の傘下にある都府県方面遊技業協同組合、支部組合そして組合員ホールは、これまでも全国各地で様々な社会貢献・社会還元活動に取り組んできました。当機構は、これらの活動の継続発展を支援し、ネットワークの拠点となっています。また、子どもの健全育成支援や災害復興支援活動への助成事業、社会貢献活動に取り組んでいる会員の顕彰事業、社会貢献のあり方や現状を考える社会貢献フォーラム、全国で会員が実施している社会貢献活動の内容を紹介する報告書の作成などを通じ、社会貢献を展開しています。

全日本社会貢献団体機構の主な事業内容

助成事業

今日の社会に最も必要とされる研究や活動に対する助成事業は、当機構の根幹事業です。毎年、子どもの健やかな成長を願う事業、災害復興支援などに対し、助成を行っています。

依存問題への取り組み

パチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決に取り組む民間団体及び研究機関に対する支援やフォーラムの実施、報告書作成などを通して社会に貢献します。

顕彰事業

会員が全国各地で実施している各種の社会貢献活動のなかから、社会的有用性、継続性、波及効果などを基準に優れた活動を選定し、最も優れた活動には「社会貢献大賞」が授与されます。

社会貢献フォーラムの実施

時代や社会に合わせ、社会貢献や地域貢献のあり方も変化していきます。どのような活動があり、どのような課題を抱えているのかなど、社会貢献の現状と可能性を考えるフォーラムを企画し実施しています。

活動報告書の作成・配布

助成事業と顕彰事業の内容報告のほか、全国で会員が実施している社会貢献活動の内容、拠出金額などをデータ化した報告書を毎年作成・配布し、会員による社会貢献活動の理解向上に努めています。

地域社会の基盤づくりを支える活動を継続



全日本社会貢献団体機構 会長

杉浦正健

当機構は2019年11月1日に、「全日本社会貢献団体機構(AJOSC)」から「一般社団法人パチンコ・パチスロ社会貢献機構(POSC)」へと組織再編いたしました。代表理事として、引き続き微力ながら精一杯努力する所存でございます。

日本の社会において、今後、ますます社会貢献活動の重要性が高まっていくことは間違いありません。そうした活動に取り組む人々や団体を支援していくことも、地域社会を基盤とする遊技産業に課せられた使命の一つです。当機構では、子どもの健全育成支援、災害復興コミュニティ支援、さらに喫緊の課題であるパチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決に取り組む事業と研究への支援などの社会貢献活動を継続し、よりよい社会の構築に寄与できるよう邁進していきたいと考えております。

お客様の期待に応えるために社会貢献を実践



全日本社会貢献団体機構 理事長

阿部恭久

おかげさまで当機構も設立から15周年を迎えることになりました。これもひとえに皆様方のご支援、ご協力の賜物と感謝しております。私たちのパチンコ・パチスロは、かつて地域住民にとって最も身近な娯楽であり、レジャーの代表としての地位を築いて参りましたが、近年、ファン人口は減少傾向にあり、業界の情勢は年々厳しさを増しております。

こうした事態を打開するには、我々ホール業者が、「地域のお客様あつての大衆娯楽」という認識のもと、地域のみなさんに奉仕していく必要があると思います。昨年、当機構は「一般社団法人パチンコ・パチスロ社会貢献機構(POSC)」へと改組いたしましたが、業界の社会貢献活動に対する姿勢はいささかも変わるものではありません。今後とも、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしく願いいたします。